

共生のきずなを求めて!

# NPO 現代座

2018 年 2 月 1 日 発行  
(通巻 476 号)

## 現代座レポート No. 73

2017 年 11 月～2018 年 1 月

- ・ 2018 年は新春バラエティ劇場で幕開け (1)
- ・ 新春バラエティ劇場の取り組み (2)
- ・ 第 1 回 川崎平右衛門研究会 (3)
- ・ 今甦れ! 川崎平右衛門 (記念鼎談) (4)
- ・ 木村快からの手紙 (6)
- ・ 3F ホールの催し/会館日誌 (7)
- ・ お知らせ 会員入会、継続、寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者: 木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

### 「新春・バラエティ劇場」で幕開け

2018 年は 1 月 12・13・14 日の 3 日間、3 階小ホールでの「新春バラエティ劇場」でスタートしました。

新年に会員の皆さんとご挨拶をかねて、いっしょに楽しい時間を過ごす取り組みです。3F の小劇場に 5 人単位で小テーブルが配置され、コーヒー、紅茶、麦茶等を飲みながら楽しく過ごします。現代座と交流のある「らく福祉会」で丁寧に造られたクッキーも販売され、ついこれを買って食べながら楽しむことになりました。

バラエティ劇場は 2016 年春から定期的に行っていく

つもりで、コーヒーカップやテーブルなどもそろえたのですが、その後企画制作担当の木下美智子が親の介護のため東京を離れているので、新しい企画が出来ないでいました。

昨年末、俳優たち自身でやっていたことと、東志野香が企画し、2 回目の「バラエティ劇場」をやることになりました。この時期出演できる俳優たちがそれぞれの出し物を持ち寄って、稽古を重ねてきました。

おかげさまで 3 ステージとも満席で、皆さんコーヒーや紅茶を飲み、おいしいクッキーを食べながら、楽しんでくださいました。今年是非 3 回目、4 回目の「バラエティ劇場」が出来るように頑張っていきたいと思えます。

【詳細は 2 ページ】



### 第 1 回 川崎平右衛門研究会が開かれました

2017 年 11 月 23 日、府中市郷土の森博物館会議室で第 1 回川崎平右衛門研究会が開催されました。これは「川崎平右衛門没後 250 年記念事業」で現代座の「武蔵野の歌が聞こえる」上演後に発足した「川崎平右衛門顕彰会・研究会」の第 1 回の催しです。96 人の方が集まってくれました。

記念講演として東京学芸大学副学長・大石学先生、小金井市長・西岡真一郎氏、法政大学兼任講師・安田寛子先生、真蔵院住職・孤島法夫氏がそれぞれ川崎平右衛門についてお話しされました。

【詳細は 3 ページ】



## 新春・バラエティ劇場

## 新しい自分を探ってみよう

現代座は4年間も江戸時代の話「武蔵野の歌が聞こえる」をやり続けているのです。格調のある演技や発声も、うっかりすると型にはまる危険があります。この際思い切って、新しいことに挑んでみようということになりました。

◆はじめは東志野香さんの「みんなで歌おう！」の時間。客席全体で、時おり手足を動かす簡単ヨガをふくめての大合唱です。前回のバラエティ劇場のエンディングで歌った「さようならよい旅を」が好評で、「歌詞を覚えてたい」という声があったので、「始まったとたんに別れの歌ですが」と東志野香さんのリードで、みんな覚えてます。皆さんびつくりするような大声で大合唱になりました。この歌は1978年に上演した木村快作のミュージカル「港で拾った花」の劇中歌です。悲しい別れの歌ではなく悲しみの中から立ち上がり、新しい出発を誓う若い女性の「新しい旅の始まり」を祝う

明るいメロディの歌です。

◆みきさちこさんは「武蔵野の歌が聞こえる」では講談調の語りを受け持っています。もともと1950年代のNHK放送劇団メンバーの大ベテランです。みきさんまで引張り出すのはどうかとみんなは気を遣ったそうですが、「わたしだってまだやれるわよ」と、佐藤愛子作「役に立たない人生相談の本」の幾つかの話題を相談者役と回答者のみきさんとで芝居風にやってみることにしました。かなり辛辣な文明批判的な作品ですが、高齢のお客さんが多かったせいもあり、共感の笑いが起こり、楽しまれたようです。「考えさせられました」というアンケートが何通もありました。

◆中村保好さんは「落語」の演目「六尺棒」に挑戦しました。20年ほど前、先輩の俳優に「演技の勉強のために落語をやってみたら」と勧められてから落語が好きになり、一生懸命覚えては劇団の忘年会などでやっています。前回の「バラエティ劇場」を見て自分も落語で参加したいと、今回の出演を決めたのです。しかし稽古の中で、趣味でやることを乗り越えなくてはお客様の前に立てないと実感したそうです。

◆矢川千尋さんは合唱のレッスンではピアニストの代

役をつとめる多才な人です。今回はクラシックな朗読。

矢川さんは学生時代から鎌倉期の仏像彫刻家運慶が大好きなので、夏目漱石の「夢十夜」から運慶の話が出てくる「第六夜」を朗読しました。

◆石川秀樹さんは「武蔵野の歌」では朗々とした声で大岡越前守の側近、上坂安左衛門を演じています。今回はうって変わって筒井康隆の「笑うな」の朗読です。朗読というより演じたと言う方がいいでしょうか。立ったり座ったり、客席に背を向けて下に向かつてしゃべったり、全身を使っているのは「へーえ、あの人が」とびつくり。お客さんの中には公演を見てから本屋さんに原作を買いに行った人もいたそうです。

このように本当にバラエティに富んだ公演になり、最後は「さようならよい旅を」の大合唱で閉会になりました。

わたしは長野市滞在なので稽古には参加出来ませんでしたが、新幹線で飛んで帰り、初日の開演に何とか間に合いました。声を上げて喜ぶお客さんの姿を見て、この仕事は本当にいいなと思いました。

(木下美智子)

東志野香・企画進行

「武蔵野」では少年時代の平右衛門役



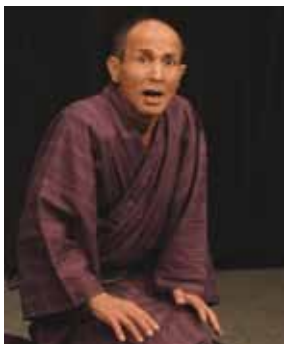
みきさちこ・「人生相談」

「武蔵野」では講談調の語り役



中村保好・落語「六尺棒」

「武蔵野」では気の弱い百姓



矢川千尋・朗読「夢十夜」

「武蔵野」では三人娘の語り



石川秀樹・朗読「笑うな」

「武蔵野」では上坂安左衛門





# 第1回 川崎平右衛門研究会が 開かれました

昨2017年11月23日、府中市郷土の森博物館会議室で「川崎平右衛門顕彰会・研究会」によって第1回「川崎平右衛門研究会」が開かれました。

研究会に先だち、川崎平右衛門顕彰会会長山田俊男より「府中市史談会」初代会長で1988年に「代官川崎平右衛門の事績」を出版された故渡辺紀彦氏への感謝状が、ご家族に贈られました。

## —— 研究会講演 ——

① 研究会会長講演「享保の改革における大岡越前・川崎平右衛門の役割」

東京学芸大学副学長 大石学教授

◆川崎平右衛門の実像を探るには江戸時代が本当はどのような社会であったかを見直さなければならぬ。遅れた封建社会と考えられていた江戸史のイメージは、現在、国際的にもアリー・モダン（初期近代）へと変化しつつある。享保改革における大岡忠相の政

策、川崎平右衛門の果たした役割は、新しいコミュニティの開発、官僚システムの改革など見直すべき点が多い。

② 記念講演「川崎平右衛門と小金井桜」

小金井市長 西岡真一郎

◆平右衛門は小金井に陣屋を置き、玉川沿いに桜を植えた人物でもある。この桜並木は歌川広重の「江戸近郊八景之内・小金井橋夕照」という浮世絵が普及し、「小金井桜」として有名になった。大正時代には国の名勝に指定されている。小金井市でもこの桜の保存に力を入れている。

③ 「川崎平右衛門史料年表にみる多摩地域」

東京学芸大学大学院 伊藤愛佳・古川瑤子

◆百万都市江戸を支えた多摩地区はどのようにして生まれ、発展したのかを年表から探る。

④ 「享保期における幕府医療政策と川崎平右衛門の役割」

法政大学兼任講師 安田寛子

◆享保15年、江戸で疱瘡（天然痘）が大流行したとき、医師が不足しているため、幕府は庶民に薬の知識を持たせる触れ書きを発行

し、「麻疹薬製造販売」に取り組んでいる。漢方薬で知られる牛糞から精製する白牛洞（はくぎょつぼら）、家糞から精製する象洞（ぞうぼら）の製造をすすめ、最初は無料で支給している。

よく話題になる平右衛門は「象洞」で金を儲けたなどの話は正確ではない。

幕府は平右衛門と中野村源助の人格、経済力を熟知した上で製造販売を依頼しており、同時に、便乗する偽薬の回りを警戒し、毒薬・偽薬対策にも力を入れている。

⑤ 「川崎平右衛門と御門訴事件」、

真藏院住職・御門訴事件研究者 孤島法夫

◆「御門訴事件」とは明治政府が新田村伝統の協同自治を廃止させ、一方的に課税した。村人が品川県庁へ訴願に向かったとき、これを武力で弾圧し、多くの犠牲者を出した事件。

⑥ 鼎（てい）談

「今甦れ！ 川崎平右衛門」

大石学教授 永戸祐三 木村快  
(次ページ参照)

川崎平右衛門は現在の府中市で生まれたため、府中市郷土の森博物館公園には平右衛門のブロンズ像が設置されている。その前で記念写真。



会長 東京学芸大学副学長  
大石学教授



小戸桜の由来を語る  
西岡真一郎 小金井市長



江戸幕府の医療政策  
安田寛子 法政大学兼任講師



「御門訴事件」を語る  
孤島法夫氏



## 鼎談 今甦れ！川崎平右衛門

第1回、川崎平右衛門研究会で行われた鼎談『甦れ！川崎平右衛門』は、当初「この会は現代座の上演の取り組みのなかで誕生したのだから、何か話すよつに」とのことでした。わたしはこのよつな場でお話ししたことがなく、お断りしたのですが、それなら永戸祐三さんと研究会会長の大石学先生にも参加して頂いて、脇から支えるからということになりまして。一時間半に及ぶ鼎談ですので、すべてをお伝えすることは出来ませんが、要点だけ簡単にまとめてみました。（木村快



木村 快 NPO現代座  
大石 学 東京学芸大学副学長  
永戸 祐三 ワーカーズ名譽顧問

**永戸** 進行を担当する永戸です。

わたしはワーカーズ・コープ（労働者協同組合）の仕事をしています。快さんとのそもそもの出会いは30年前、わたしどもワーカーズの前身「福祉事業団全国協議会連合会」の中西五洲理事長と快さんが「協同について」対談されたとき、わたしもかわつておりました。

わたしは協同について学ぶ必要があると考えていました。池上惇先生（京都大学名誉教授）から二宮尊徳について教えられ

たり、尊徳の研究会にはときどき参加したりしてありますが、実は木村快さんの「武蔵野の歌が聞こえる」を観ると言われるまで、川崎平右衛門のことは知りませんでした。

二宮尊徳の記録はいろいろ残ってるけど、平右衛門についてはあまり記録が残ってないのだそうで、作品を制作するのは大変だったろうなと思いました。

歴史というものはどういう視点で見ると変わります。歴史的事件を考える場合どのような視点で見られるのでしょうか。

◆史実（ヒストリー）から物語（ストーリー）へ

**木村** 一般的に伝えられている話では、幕府の役人が投げ出した新田開発事業を「利殖的才能に優れた平右衛門が、少しでも貯めようとする農民の心をつかんだ」と言うのですが、ちょっと疑問があつて、平右衛門がどのような生涯を送つたのかを追ってみました。

**大石** 歴史研究の方法は、資料や文献から史実を立ち上げていくものですが、「武蔵野の歌」が、いきなり宝永の富士山噴火という非日常の世界から入っていくとは驚きでした。

わたしは時代考証の仕事もしていますが（現在NHK大河ドラマ「西郷どん」、ヒストリー（史実）は一回性の真実ですが、これが繰り返されるうちに虚構化し、フィクションを生み出すことになりました。「水戸黄門」「忠臣蔵」「大岡政談」などは、その典型です。「武蔵野の歌」の場合、木村快さんは壮大なフィクションを自覚しながらつくつたのでしょうか。木村ワールドでも言うべき世界ですね。いきなり大災害の話から始まり、展開もスピーディで、息をのみながら見ました。

もう一つ「協同」というキーワードで貫かれていることに、この作品の特徴を感じました。ヨーロッパの協同は、善意の人々が寄り添って、理想の形を作るのが一般的ですが、これを川崎平右衛門という個人に託

して描いた点は新しい視点で、驚きでした。

江戸時代の「村」を歴史的にどう見るか、大きく二つの見方に分かれます。一つは中世から続く江戸時代の古村こそが典型であり、それが戦後の農地改革などで崩壊したと見る考え方です。もう一つは、江戸時代の耕地拡大にもとづく新田こそが、江戸時代の村の典型とする見方です。新田には、さまざまな地域から人々が集まり、新しい秩序が生まれたことを重視する考え方です。「武蔵野の歌」は享保改革によって開かれた武蔵野新田に集まった農民たちが、新しい秩序をつくつたというケースですね。

◆協同のシステムを生み出すリーダー

**永戸** 二宮尊徳の場合は、最初農民を説得してもなかなか立ち上がらない。農民にひどい仕打ちをしてしまつたりしたそうです。断食をして自らを戒めるわけですから、人の心が開かれていけばどんな荒地でも恐れることはないという境地に達します。「わが道は人々の心の荒蕪を開くのを本意とする。」（二宮翁夜話）という言葉が残っています。

いずれにしても一緒にやろうとする心が育たないと何もすまないとはいけません。幕府の官吏にできなかった村づくりが、平右衛門のリードによって実現したとすると、そこではやはり農民の心を開かせたということですね。

**木村** 私自身の体験では、協同作業にとつては心の共有が大前提だと思っています。私は戦後開拓の農場やブラジル移民の農場を調査したことがありますが、計画書がどんなに優れていても金につられて集まった開拓はうまくいきません。しっかりした農場は弱い



家族を含めて一緒に生きる農場で、性格は地味でも、それをリードする指導者がいることで協同のシステムが育つのだと思います。

平右衛門は洪水対策を担う村で生まれ育ったからでしょう。自然災害に対しては、農民は無条件に協同作業で立ち向かいます。そのため、この村では普段から心を合わせるさまざまな風習があったのではないかと思います。残念ながら村の暮らしぶりを伝える文献にはお目にかかっています。

平右衛門の生涯を追ってみると、美濃国での洪水対策ではどこに水門を建設するかで利害が対立する名主たちを、何年もかけて辛抱強く説得しています。やつとみんなで合意して建設にかかろうとしたら、資金が多額すぎて幕府からの支援金は出ないことになりました。そのとき、名主たちは自分たちの資金でやろうと立ち上がります。ここには、苦境にある人々に寄り添い、エネルギーを引き出す平右衛門の姿が見えます。平右衛門は号令型のリーダーではなく、みんなの支え手として信頼された人物だったのでしょう。

**大石** 当時の幕府には、開発派と反対派がありました。平右衛門は勿論開発派ですが、開発派のなかには、「百姓とゴマの油は絞れば絞るほどとれる」と言明したとされる過激な官僚もいます。しかし、平右衛門は一軒一軒実情をよく調べ、個別の手当てをしています。

**永戸** 江戸時代、平右衛門のような人物は各地にいく人もいたんじゃないかと思えますね。

#### ◆いま何が必要なのか

**木村** 東日本大震災からもう5年がたちます。地域は高齢化して、協同の知恵はあるが、協同を担う力がない。

改めて助け合うということについて考えてみたい。

劇場芸術のいいところは、ある瞬間を表現することで、観客心理が一体化することです。井戸掘りの場面で、

平右衛門がそれぞれの働きに応じて麦を支給しようとしたとき、赤ん坊がいるため、働きたくても働けない若い母親がその場を立ち去ろうとします。そのとき高年齢の女性が「赤ん坊は私が預かるうじやないか。あんたは働かせて貰いなさい」と言う。その瞬間居合わせたみんなが心を打たれ、みんなで力を合わせてやろうと言い始めます。平右衛門は赤ん坊にも、赤ん坊の子守をする者にも、みんなに麦を支給すると宣言します。寄せ集め農民の心が一つに結ばれていきます。今、最も実現してほしい心です。

**永戸** そうした「新しい生活を築こう」とする心を引っ張っていくのがリーダーの役割ですね。

**大石** 今必要なことは同じ志で集まった人々を「排除しない」ことでしょう。排除しないことが心の響きあいを生み出す大前提だと思いますね。

先ほど、孤島法夫さんが「御門訴事件」についてお話しされました。武蔵野の農民が明治政府に対して訴訟を起こして弾圧された事件です。その話を聞きながら、武蔵野には新田開発期以来の協同の伝統が息づいているのを感じました。

川崎平右衛門は頑張った。だが、その川崎を評価して引き出した上司の代官上坂安左衛門、さらにその上司の地方御用大岡忠相、そして將軍吉宗というラインは、お互いに能力を認め合っていたことが特徴です。吉宗の享保改革は、従来の官僚制とは別に、新しい農財政システムを創設しました。どうすれば、官僚制を再編することが出来るのか。現代的関心から、研究する必要があると思っています。

#### ◆時代の変わり目だからこそ

**永戸** 現代は「今だけ、金だけ、自分だけ……」と言うのがやはり言葉らしいですが、すべてが金ではじまり金に収れんされる時代です。世界の大企業は2010年から2016年までに50兆円の金を貯金してると言われています。しかし、金があるから集まった人々は金が無くなったらいなくなってしまう人たちでしょう。そんな時代に、木村さんはまったく金にならない平右衛門をやっている。(会場の笑い)

**木村** この劣化した現代社会は、立て直すことが出来るのだろうか。

**大石** 私は図書館の責任者でもありますが、今日の文化状況、文明状況を見ると、ペーパーレス化の動向が気になります。記録された紙媒体が捨てられ、情報はバーチャル化している。図書が不要になり図書館の機能が変質する、この文明社会はどこへ行くのでしょうか。

さらに、富士山の噴火の時は、協同で灰を処分することができたけど、現代の原発となるとそうはいかない。わたしたちはそこまで文明レベルの違う世界に生きていくという自覚が必要です。

**永戸** 木村快さんは平右衛門を改革期が生んだ人物であると言いきり、あらためて市民感覚で歴史を見直せと指摘しています。わたしたちワーカーズは20年来、「地域を起す、仕事を起す」「労働者協同組合の法制化を追求してきました。来年あたり法制化できると思っています。こんな時代だからこそ新しい時代への目が育つてほしいし、このような研究会も、新しい力が養われる場になつて欲しいと強く思いました。

## 木村快からの手紙

会員の皆様

ご支援のおかげで細々とではありますがなんとか生き延びて仕事を続けております。

わたしもとうとう82歳になりました。時には外の集まりにも顔を出したいのですが、若い頃からの三半規管の障害がひどくなって、一人での外出が出来ません。それ以外の身体の状態は全く問題ありません。別に長生きしたいと思ってるわけではないのですが、まだまだやっておかなくてはならない仕事如山積みなので、やはり焦ります。

周囲から「せめてレポートに木村快の近況を掲載してはどうか」とすすめられ、毎号1ページいただいで、やらなければならぬ仕事の報告をしていきたいと思っております。

### ◆近況

本部での仕事は3ヶ月に1回のレポートや宣伝資料の編集を分担しています。専門の版下プログラムを使っているため、やはり感覚が追いつかず長い時間がかかります。仕上げはIT専門家の細見吉輝さんが、介護施設勤務の合間をぬって助けに来てくれています。

上演作品の方は2010年から取りかかった『武蔵野の歌が聞こえる』が予想外に永く続いて、みんなに助けられながら、演出も続けています。

ところが去年後半から本部の運営・企画・財政を担当していた木下美智子が、共に96歳になる長野の両親をつきつきりで介護しなければならぬ事態が起こり、本部に常駐できません。まあ、来たるべき時が来た

けの話で、与えられた仕事に一生懸命向き合っています。仲間のみんながそれぞれ仕事を持っているにもかかわらず、分担して助けてくれています。

### ◆資料の整理

現代座の資料庫には統一劇場・現代座以前からの60年間に及ぶ全国各地公演の資料、更に現代座が関わったブラジル移民の資料などが積み上げられています。

幸い、舞台メンバーの東志野香さんが木下美智子のサポートと資料の整理を手伝ってくれることになりました。



40年に及ぶブラジル移民史の取材資料は、神奈川大学日本常民研究所の森武麿先生（一橋大学名誉

教授）と立教大学院生の名村優子さんが助けて下さることになり、ほつとしています。森先生は昭和史の協同組合運動、ブラジル移民、満州移民引揚者の開拓史などを研究しておられ、木村の仕事とは重なる部分があるので任せてくれと言っておりました。名村優子さんはブラジル移民の取材や日本力行会の資料整理にも関わったブラジル移民史研究者です。

### ◆『われらいずこより来たる』

実は2010年から、希望舞台の由井数と、新制作座、新制作座争議団、統一劇場、現代座・希望舞台の歴史の原点である「劇場づくり」運動のまとめ作業を進めています。これには新制作座の退団者も何人か参加してくれました。

わたしたちは新劇運動の流れのなかで生きてきたわけですが、殆どの劇団が都会中心の「見せる舞台づくり」をすすめたことに対して、新制作座育ちのわたしたちは全国の地域で地域住民と共に「劇場づくり」をすすめてきました。そうなるとうわたしたちの育った新制作座はなぜ生まれたのかという問題にぶつかり、日本の近代劇運動、新劇運動の流れとしてまとめなければなりません。

現在、『われらいずこより来たる』の表題で、戦後の新劇運動から新制作座が生まれ統一劇場が生まれ育ったところまではA4版20ページ原稿で14冊が出来ています。次に現代座・希望舞台の誕生と成り行きを書いていきます。

### ◆希望舞台との共同作品

あと一つ、作品『希望の谷』をなんとか仕上げたいと思っています。これは2000年に希望舞台の由井数から現代座との共同作品として提案され、山田洋次さんにも力をお借りして、なんとかポスターや下書き稿は出来ていたのですが、劇団の事情がうまくかみ合わず、先延ばしになったままなのです。

道路が崩壊したまま放置された山間僻地の集落に、なぜか変な高齢者たちが樂しげに生きているという話です。「俺たちも高齢になったらこんな風に生きられるかな」と言っていたのですが、今や現実そのものになりつつあります。豊かさだけを追い求めて谷底に沈むグローバルイズムへの批判をこめた話ですが、楽しい共同作品になればいいなと思っています。

◆次号からは各作業の中身についてお伝えします。

### 現代座会館3F「小さなNPO劇場」

BONBON組公演 3月16日〜18日

「表札職人」作・山下博史 演出・矢川千尋



現代座への出演でお世話になって  
いる矢川千尋です。

この3月に、私が代表をつとめる「BONBON組」が、現代座会館3階小ホールで「表札職人」というお芝居を上演します。早いもので、私が現代座に係わるようになってから6年近くの年月が経ちました。以前から現代座の『遠い空の下の故郷』や『わすれものはありませんか』『ユーモレスク』を拝見し、なんて心があたたくくなる作品だろう、この余韻が残るふわふわした感覚はなんだろうと思っていました。そしてこの空間に自分も係われるようになり、本当に感謝しています。

「BONBON組」が3階小ホールで公演するのは3回目で、1回目は2014年5月29日〜6月1日公演『べっかん鬼』、2回目は2016年12月2日〜4日公演『死神の使い』でした。

今回の『表札職人』は私たちの劇団のオリジナル作品で、ジャンルはコメディになります。表札をめくり、ものの価値とは人それぞれで、その人にとって価値のあるものは、他人からみたらガラクタの場合もあり…。ものの価値について、いろいろな立場の目線で繰り広げられる作品になります。

これだけを聞いたら、どこがコメディなのかと言われそうですが、立場や環境が違う人達が集まるだけ

でドラマや笑いがうまれるものだと私は思っています。そしてうちの劇団の作家である山下も同じように考えて作品を作りました。

今回は初の演出をやらせていただきます。なにせ初めてなので、今からドキドキしていますが、力まず柔軟に、自分が面白いと思えるものを出演者とともに作り上げたいと思っています。

自分がどこまで出来るのか未知数ですが、現代座のように「観客との一体化を目指した劇場づくり」を目標として頑張ります。演出家として新米の私ですが、精一杯やらせていただきますので、お時間がある方、興味のある方はぜひ足をお運びくださいませ。

### BONBON組公演「表札職人」

#### [公演日時]

3月16日(金) 19:30  
17日(土) 14:00 / 19:00  
18日(日) 14:00

#### [公演場所]

現代座会館 3F小ホール

#### [料金]

前売り当日共に 2500円  
※高校生以下 1000円

#### [お問い合わせメールアドレス]

info\_bonbon@yahoo.co.jp

### 現代座会館 11月〜1月 活動日記

- 11月3日 現代座創造グループ会議
- 12日 「現代座レポート72号」発送作業
- 12月26日 森武麿氏、名村優子氏、ラジール資料整理に来訪
- 27日 学芸大放課後児童クラブスタッフ来訪
- 1月20日 日伯経済文化協会月例移民史読書会
- 毎月第3木曜日 「緑町ふれあいサロン」

#### 【現代座ホール】

- 11月6〜8日 劇団希望舞台「焼け跡から」稽古
- 9〜12日 歌をあなたに「エルナトの海」公演
- 22〜26日 むさしの芝居塾「秋の演劇祭！」公演
- 29〜12月3日 劇団もーるす信号「逆光オイディプス」公演
- 12月10〜13日 ふるきやら「瓶が森の河童」稽古
- 23日 ミストラルジャパン「ゆらめくかたち」公演
- 1月19〜29日 りんどうの会「人はなんで生きるか」稽古

#### 【三階小ホール】

- 11月4・11日 スタジオ・ポラーノ稽古
- 12月9日 武本匡弘「星と波と風と」報告会
- 10日 津田「リトルコンサート」
- 17日 りんどうの会朗読「人はなんで生きるか」試演会
- 3・20・29日 「バラエティ劇場」稽古
- 1月6・8・10日 「バラエティ劇場」稽古
- 12〜14日 「バラエティ劇場」公演
- 15日 小金井女声合唱団練習
- 隔水曜日 朗読教室
- 毎火曜日 ヨガ教室

#### 【定期使用 一階サロン】

- 毎日曜日 教育文化経営学院(学生支援)
- 毎月曜日 子どもクラブ・バンビーノ
- 毎水曜日 熟年パソコンサークル
- 隔木曜日 iPad熟年講座



## 2018年新年会

## 北海道の会員・信田さん夫妻を迎えて

はるばる北海道・道北の北見市から信田（のぶた）直哉さん夫妻が訪ねてきてくれました。信田さんは1987年の「遙かなる島」以来、現代座が北見市を訪れる度に実行委員長として支えて下さっています。

「新春バラエティ劇場」公演終了後、「武蔵野の歌が聞こえる」の出演者や地域スタッフを含めて信田さんの歓迎をかねた新年会を開きました。（前列白い上着が信田さん、その右が奥さん）

信田さんは昨年末にもジャガイモやタマネギを送ってくださり、早速新年会の手作り料理に活用



させて貰いました。今回、信田さんは「バラエティ劇場」の事を知って、旅行中に見に来てくださったのです。冬は農閑期で旅行できるので、毎年新春バラエティ劇場をやって、信田さんも又旅行に來てもらおう！と盛り上がりました。

## お知らせ

TEL 042-381-5165  
FAX 042-381-6987

## りんどうの会 公演

トルストイ民話集より  
「人はなんで生きるか」

日時：2月17日(土)15:00 / 19:00  
18日(日)15:00

場所：現代座ホール

料金：一般 3500円  
一般リポート 3000円  
学生 2000円

申込み：sugiyamakikaku@vesta.ocn.ne.jp  
03-6657-7027

NPO 現代座  
誰でもできる朗読教室

## 第5期生 発表会

日時：4月25日(水) 13:30～  
場所：3F小ホール  
料金：入場無料

文学作品をテキストにした、朗読講座の発表会です。昼のクラス夜のクラスが合同で11名の受講生が発表します。講師の長谷川葉月さんの指導は、発声の基礎訓練を丁寧にやり、それぞれの個性を大切に生かしています。6ヶ月間12回の講座の成果を是非ごらんください。

## NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

## ★年会費（現代座レポート購読料を含む）

一般会員 3,000円  
協賛会員 10,000円（1口以上）  
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座